

大気浮遊じんモニタリング結果について（令和7年10月15日までの評価）

●渡邊正己京都大学名誉教授（南相馬市放射線健康対策委員会委員長）による解説

8月20日から10月15日の間の大気浮遊じんに含まれる放射エネルギーの測定結果が出ました。

測定値は、 $0.1\text{mBq}/\text{m}^3$ 以下を推移しており、その放射エネルギーを吸い込んでも平時の南相馬市における年間推定被ばく線量（年 0.82mSv ）の千分の1以下にしかならず、健康に及ぼす影響を心配することはありません。測定結果から、原発事故現場からの放射エネルギーの異常放出を疑う数値も得られませんでしたのでご安心ください。